

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	志賀高原ヒルクライム
事業主体 (連絡先)	志賀高原ヒルクライム実行委員会 (0269-33-1107)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,750,614 円 (うち支援金 : 3,584,000 円)

事業内容

国立公園内における自然に対し負荷をかけないサイクルツーリズムの振興を図るため、国道最高地点のある国道292号を閉鎖し、全長13.4km標高差約700mの志賀高原サンバレー～渋峠間を走るヒルクライムレースを開催。自動車の移動では得られない雄大な自然、景観を満喫しながら自転車レースを楽しんでいただき、ゴールエリアでは、須賀川そばを使った「そば鍋」や地元のおにぎりなどの地域食材を提供し、地域の魅力発信を行った。

- ・時期 令和4年9月11日(日)
- ・参加者 605名(エントリー697名)
- ・宿泊 参加者の約8割(前日受付による)

事業効果

- 大会運営上、アンケートの実施は出来なかったが参加者による SNS への書込みで、景色や地元食材が満喫できたこと大変好評であった旨の内容が多数寄せられた。また八重洲出版発行の自転車雑誌(20万部発行)にも大会開催に係る記事が掲載され、情報発信が行われる中、サイクリストに志賀高原の認知度を高めるとともに、誘客やサイクルツーリズムの推進が図られた。
- 過去2年、新型コロナの影響により大会中止を余儀なくされたが、支援金を活用し、安全対策等を講じたことで、事故なく無事に大会を終了することができた。

今後の取り組み

- イベントの継続開催
イベントの認知度の高めるため、第3回大会までは行政負担等も含め大会開催を支援し、第4回以降のイベントにおいては、参加料収入にてイベント運営を行うことを目指す。
- イベントを契機とした観光入込客の増加
イベントを契機に、自転車を活用した志賀高原での楽しみ方を知っていただき、グリーンシーズンにおける誘客のためのコンテンツにつなげていく。また信越自然郷などと連携し、自転車を利用しての周遊観光の在り方などの検討も進め、国内・国外問わず幅広い層への参加を周知できるように企画を地域住民と一体となって検討していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【 スタートの様子 】

【目標・ねらい】

- ① 自然に負荷をかけない観光地づくり・サイクルツーリズムの推進
- ② 地元食材のPR
- ③ 新たな観光の魅力発見

※自己評価【B】

【理由】

感染症対策を講じる中での開催であったが、参加者の満足度が高く、志賀高原における自転車を活用した楽しみ方を理解していただき、サイクルツーリズムの推進が期待できる結果が出たため。